

# 平成27年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈弥勒園

## 1. <平成27年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

## 3. <中・長期計画>

### ●最終目標

- ①『ふあっとほーむな生活を目指す』

※ふあっとほーむとは、和みのある家庭的な雰囲気の中で、人と人とのつながりを大切にすること

- ②『一人ひとりが輝き、あなたが主役になる場所を目指す』

### ●中期目標

- ①経営理念やヴィジョンを全員が把握し、徹底していくことで特色ある施設作りができる。
- ②職員レベルを向上させプロ集団を形成すると共に、サービスの質を向上させる。

### ●27年度重点目標

- ①予定の徹底的管理をさらに進化させ、PDCAサイクルの効率化を図る。
- ②ゲスト情報を一元化し、ケアプランを中心としたケアマネジメントの構築を図る。
- ③顧客確保及び人財確保の為、広報活動を推進する。
- ④老朽化等に伴う設備改修工事を適宜行う。
- ⑤EPA受け入れの為の準備を行う。

## 4. <部門別目標>

<ケア部門> (1F→プラム棟、3F→一般棟)

<目標>

◎プラム棟：『認知症ケアが出来る様になる』

- ①日中の傾眠50%減少。(当年4月実績を基準とする)

A) ゲスト一人一人が心地よく生活できる環境を提供できる。

- ・認知症ケアの学習会を月に1回開催。
- ・部署独自のマニュアルを作成し、看取りゲストに対するケアの質を上げる。
- ・日中の巡回表を作成し、午前と午後にチェックをする。又、巡回表を毎月データ化する事で、改善を図る。

認知症学習会を年間計画に沿って実施する事が出来た。周辺症状や認知症という疾患についての特徴やバリデーション、尊厳についてなど様々な角度から職員が学ぶことが

出来、良い機会となった。また、傾眠データを毎日とり、日中の傾眠を減らし夜間しっかりと入眠して頂く為に、レクリエーションも毎月内容を替えながら実施した事で、目標には至らなかったが、開始4月の日中傾眠率16%から3月には9%まで減少した事は評価できる。

B) ゲストに楽しんで頂ける行事の実施。

- ・ 普段のコミュニケーションから、ゲストの要望を聞き取る。
- ・ 季節に応じたプチ遠足や外出行事の企画を行う。
- ・ 月1回実施している食事バイキングの継続。
- ・ 午後のレクリエーションの考案。

普段のコミュニケーションから、ゲストの思い出場所などを聞き、情報収集は出来ていたものの、外出行事まで繋げることが出来なかった。レクリエーションに関しては、毎日ラジオ体操と、月替わりでレクリエーションを継続して行う事が出来た。ただ、プラム棟ゲストのADLを考えると、全ゲストが参加できるレクリエーションの考案が難しく、バリエーションは少なかったが、盛り上がったレクリエーションを実施する事が出来たと感じている。

②チームワークについてのアンケートを取り、気持ち良く、円滑に働ける環境として、7割の職員が良いチームであると思える部署にする。

A) 何でも話せる環境作り

- ・ 全員での10分間朝礼実施。(モチベーションが上がる内容確立、実施、定期的考案)
- ・ 毎月28日、各ゲストの排便状況をデータ化し職員間で共有する。
- ・ 毎月、水分平均摂取量1500mlの維持と夜間排便を10%以下に減少(看取り対象者を除く)

朝の朝礼と朝礼後の床掃除は毎日実施する事が出来た。朝礼の内容は毎月会議で検討しながら、職員やパート職員、派遣職員が、話しやすい環境になる事を目的として改善を繰り返し、実行していく事が出来た。また、水分量の維持、夜間排便の減少に対しても、職員間で意見交換しながら対応策を考え、決定した内容を周知させ、皆が協力し合う事が出来た。その結果、目標には到達できなかったが、水分量1500mlの維持と夜間排便は4月22%から3月には19%と減少させることが出来た。

B) 整理整頓、フロアの清潔に対する意識の向上。

- ・ 場所毎に責任者を決め、整理整頓を皆で行う。月1回委員会実施と、週1回清掃時間を設ける。
- ・ 清掃チェックシートを作成し、各業務毎に毎日シートを記入する事で、意識の向上を図る。
- ・ 定期的に全職員へアンケートを配布し、集計する事で、評価・改善を図る。

各フロアに責任者をおき、整理整頓や清掃箇所の計画を立て、週1回業務時間内に、他職員やパート職員を巻き込んで清掃時間を設け実施した。1年間を通し、少しではあるが改善出来ていると感じている。反省点としては、物が散乱している事や床が汚れていたりゴミが落ちていてもそのままであったりと、日々の整理整頓や清掃、清潔に対する意識の向上にまでは至っていない。来年度は、一人一人職員の意識の向上を図れるように取り組みを行っていきたいと思う。

◎一般棟：『ケアマネジメントの良循環化を図る』

①ゲストの個別性を職員間で共有し、その方に応じたケアが実施出来る。

- A) 問題発見時は職員間で情報・意識を共有し迅速・正確な対応が出来る。
- ・ 働きやすい環境づくりを目指し、整理・整頓を行う。

- ・情報共有の為のツールを増加する。
- ・情報の見える化を図り、職員個々の意識・行動を変える。
- ・学ぶ機会の増加と役割の明確化を図る為、各種場面に責任者を配置。

情報共有そして意識の共有を図る為、日々の整理整頓を心がけ、頻度・質・量等、正確に情報が流れる仕組みを目標とした。そして、職員間で共有する行事や業務予定の見える化を図り、ホワイトボードの活用やインターネット活用を行った。それに伴い、正しい情報を得た上で、考え、行動することで、正確性の向上に繋がったが、新たな課題も発生した。問題（事故・クレーム）発生時の対策の周知に対し、文字では伝わるが、その背景や思いを共有することが出来ず、職員間での温度差が生まれた。その為、毎朝の部署全体ミーティング（引継ぎ）を再開した。次年度においても一人ひとりの正確性が向上する為の仕組みとして情報共有を最重要課題として位置づけ、行動する。

#### B) 週1回の面談

- ・職員が報告し易い方法・環境を整え、早期解決を図る。
- ・報連相の流れや、チェック機能を確立させる。
- ・フィードバック回数を増加し、振り返りと目標管理をリンクさせる。

各チームリーダーと職員が月に1度必ず面談を行った。その結果、職員間での情報・思いの共有が進んだが、当初は目的のある話し合いではなく、問題報告（愚痴）が集中した。だが、相手がなにを考えているか分からないという不安からくる職員間の摩擦やズレが徐々に減少し、組織的な問題報告の体系（報連相）が完成した。又、課題解決の処理スピードが迅速になり、報連相・情報共有力の向上など、面談を行う事で生まれた結果（効果）はサービスの質やチーム力を高める要因だったと、その重要性に大きく気づく形となった。そして、次年度も多くのプロジェクトを予定している中、面談におけるその効果と必要性は高いと認識している。

### ②PDCAサイクルの習慣化を図る

#### A) ゲストのケース検討会議を毎月開催する。

- ・ゲスト毎のサービス内容のグループ化や見える化を行い、実行率の上昇を狙う。
- ・PDCAサイクルに基づいたチェック・改善機能を高める。
- ・介護の考察を磨く研修を部門会議・面談で行う。
- ・他職種と連携し多角的方面から情報収集を行う。

ゲストのケース検討会議を行う事で、ケアマネジメントのスパイラルが向上し、想いを汲み取り、サービス(外出行事や個別ケア)に繋がるなど、ケース担当者の姿勢として良い動きがみられた。だが、対照的に、まだまだ課題は多く、サービスの実行に伴う、モニタリングが上手く記録されておらず、毎月のまとめ・総括にも反映していない部分が多い。次年度においてもこのケース検討会議の重要性を認識し、計画・実行・問題・改善の流れを強く意識し、ケアマネジメントの向上を図ることで、サービスレベルを安定していきたい。

#### B) 各部門内メンバー、担当ゲストの短期目標達成率100%を目指す。

- ・達成率の指標を図る為の方法を確立する。
- ・毎月の部門会議で評価・発表を行い、結果検討表に記載される。
- ・リーダー会議で全体に関わる情報や問題を整理し解決に向けた計画を立案する。

全ゲストの短期目標100%の達成を目標にケース検討会議を行い、PDCA及びケアマネジメントサイクルに沿ったケアが提供できるようアクションを起こした。結果、サービス提供レベルが向上・安定したことで、おのずと短期目標の達成となった。だが、短期目標達成率に関しては、どれも抽象的である為、何を持って達成したかど

うかの判断は立ちにくい。だが、大きくとらえると、目標達成している部分は多いと捉える。現状は計画実行というより課題処理・解決に追われるような状態である。

## 5. <<相談援助部門>>

### <目標>

①ゲスト情報を一元化し、ケアプランを中心としたケアマネジメントの構築を図る。

A) カンファレンス数の増加とアセスメントツールの作成。

②モニタリングの精度を上げる

A) 実施状況の見える化。(ケア状況の写真・動画撮影と検証等)

B) 「ほのぼの」を活用し、検討事項を誰もが確認出来るシステム作り。

看取り導入の時期を職種間で話し合い、説明時期を早めた事でカンファレンスの実施数は向上。また、質問事項も固定する事で、御家族の考えや思いを聞き取り易く、又、職員間で共有し易くなっている。反面、形式化しつつある為、注意が必要と考える。また、看取り勉強会の中で御家族に対してアンケート調査を実施。この中でアセスメント項目を設け、これを職員間で共有できるよう取り組む。数名の職員は更新(発信)を行い、日常のケアに活用出来ている為、少しずつでも成功例を重ねたい。

## 6. <<経営部門>>

### <目標>

①充足率99%維持を目指し、経営基盤の安定を図る。

A) 各部署等と共同し、ゲストの疾病予防策を検討して健康維持を図る。

B) 入所待機者との関わりを増やし状況を把握する。上位3名の面接を常に行い、スムーズな入所を目指す。緊急入所についても率先して行動する。

C) 総務部と共に経営分析を長期・中期的に行い健全な経営を維持する。

D) 待機者管理促進の為、月2回会議を実施する。

前年度平均充足率98%に対し、今年度は97.9%と、ほぼ前年並みとなった。年度途中までは98%以上で推移していたが、2月に看取り対象者が増えた事が要因である。詳しい理由は、※1の入退所等内訳表参照。  
待機者は、依然約162名(3/31時点)であるが、近年緊急性が減少してきている。

②報酬改定への対応と、新たな加算取得を目指し収入アップを目指す。

A) 新設加算への対応。

B) 認知症専門ケア加算の取得を目指す。

下記の表に記載の通り、今年度1名認知症リーダー研修が終了しているが、加算算定条件には満たさず、次年度以降に持越しとなった。

	27年度受講者数	これまでの累積数	加算取得に必要な人数
認知症実践者研修	0名	12名	—
認知症リーダー研修	1名	5名	6名以上

③紙おむつ代の削減の継続を図る。

A) 25年度実績を上回らないよう、チェック体制を継続。

特養入所要件の変更によるゲストの重度化と感染症対策等の理由により、前年度より約97万円アップした。目標値や単価の再検討を行い、次年度も継続したい。

④人財確保及び新規顧客獲得のため、広報活動の推進を図る。

- A) リニューアルしたホームページを更に活用し、情報量の増加及び「大慈園らしさ」をアピールする。
- B) SNS等を活用し、リアルタイムな情報を発信し続ける。
- C) 学校訪問し、人財確保を図る。

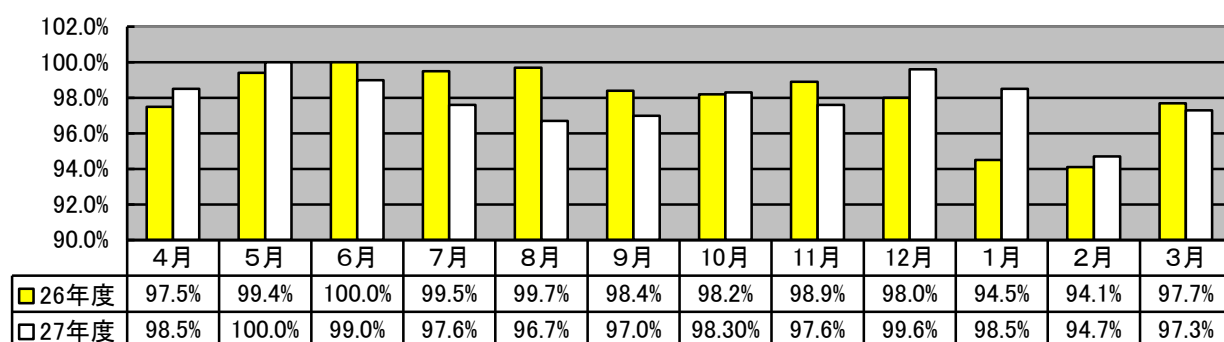
事業戦略委員会において、上記の対策を推進。専用の窓口を設置した事で、新卒者が不安なく円滑に入職できた。

⑤介護福祉士資格取得支援制度の拡充を行う。

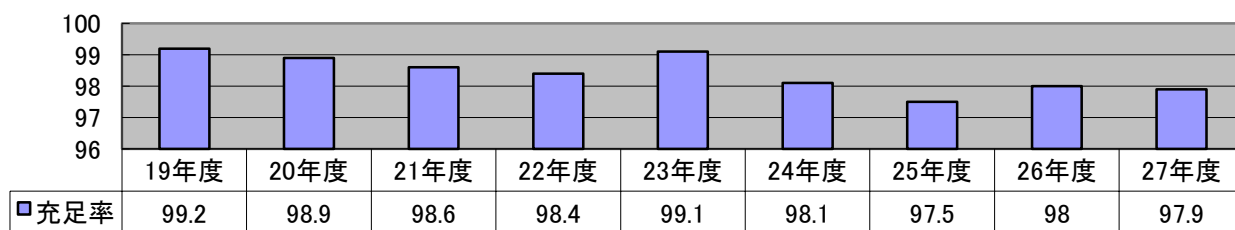
- A) 実務者研修費用全額支給
- B) 登録研修機関の申請・登録

介護福祉士の合格率は50%（2名受験し、1名合格）した。前年度50%（6名受験し、3名合格）と数値は横ばいであるが、受験者数が減っている。

●27年度月別充足率表



●年度別充足率推移 (%)



●※1 入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
①27年度	31	0	27	15	26	5
②26年度	26	0	39	27	23	5
③25年度	37	2	49	35	28	0
増減①-②	+5	0	-12	-12	+3	0

●介護度別年齢別等人数表

平成27年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間3.0年（男性3.4年、女性2.9年）

最高滞在期間11年（女性）

要介護度	平成27年度				平成26年度			
	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
1	12	3	9	88.0歳	10	3	7	85.1歳
2	10	2	8	87.3歳	12	4	8	88.7歳
3	26	7	19	86.1歳	24	6	18	84.9歳
4	29	6	23	85.4歳	25	4	21	85.8歳
5	27	5	22	87.4歳	30	4	26	86.5歳
合計	104	23	81		101	21	80	
平均 介護度		3.3	3.5	3.4		3.1	3.6	3.5
平均年齢		82.4歳	87.7歳	86.6歳		81.9歳	87.2歳	86.1歳
最高年齢		98歳	106歳			97歳	105歳	
最小年齢		57歳	60歳			56歳	59歳	

## 7. <<理学療法科>>

### <年間計画内容>

ADLレベルの低下を防ぐ事を目的とした、日常生活内動作の観察と共に、軽微な日常生活リハビリを提案・指示（指導）する事で、自立支援への手助けを遂行する。

### <実践目標>

#### ①現況での日常生活レベルの把握

- A) 機能レベルに順じた生活対応の見直し…随時
- B) 家族への状態（機能面・リスク・介助法等）報告…カンファレンス等

#### ②自立支援への手助け（残存機能の維持）

- A) 日常生活内リハビリのメニュー作成・指示・職員指導…定期的
- B) 過剰介助への指導をする事で残存機能を最大限引き出す手法のアドバイス…随時

ゲストの機能的レベル評価をカンファレンス時等において実施し、家族への状況報告等もその都度において出来ている。また家族・ゲスト本人からの要望に対して、生活内においてどの様なリハビリ・介助対応法が良いかなどの説明・指導等も入れながら、二次的なレベル低下を防ぐ事が出来た。

過剰介助の除去については中々、現場対応スタッフの業務内容等により解消される事は出来ていないが、今後も過剰介助による機能的リスクを指導して行く事で、適応した介助法が取れる現場作りに手助けして行きたいと考える。

#### ●業務実績

- 物理療法・・・年間359回（25年度377回）
- 運動療法・・・年間186回（25年度299回）

## 8. <<看護部>>

### <目標>

『QOLを尊重した看取りケアの充実を図る』

- ①看取り導入期の基準に沿ったアセスメントを実践する。
- ②看取り対象者や御家族様の意思を尊重した看取りケアを実践する。

日常の健康管理については、各部署担当看護師が申し送りに参加することでゲストの状態把握が出来ており、個々に必要な処置や早期対応は実施出来ている。又、医務内での情報収集に関しても、午前と午後に時間を設けることで担当部署以外の部署の情報共有が出

来ており定着化してきていると考える。又、今年度の健診業務に関しては、見守り体制の強化により事故無く実施することが出来た。

看取り対象者については、弥勒園23名・吉祥園7名と前年に比べ6名多く看取る事が出来た。

今年度は、対象者や御家族様に直接関わられた機会が多くグリーンケア・グリーンワークの実践が出来た。又、看取り導入期時の意向確認についても、委員会主催による勉強会に参加された御家族様の理解は進んでおり、導入期の受け入れがスムーズに行えたことは評価できると考える。

今後の課題として不安定期には、御家族様への連絡はもちろんのこと、他職種間の連携と情報共有を強化することにより御家族様の思いが汲み取れるような支援体制を築いていきたい。

●年間業務

月	項目	内容
6・7月	職員定期検診	胸部X線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎X線（介護職のみ）
11・12月	ゲスト・全職員	インフルエンザ予防接種
	入所者定期検診	胸部X線、採血等
1月	介護職員定期検診	採血

●週間診療表※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

曜日	午前 午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午前	平山 尚哉	歯科	毎週
火	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	月2回
		平山尚哉	歯科	毎週往診
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後			
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後		糖尿内科	
土	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	

9. <<栄養科>>

<目標>

①食事の面で、ゲストの良い変化・悪い変化を察知する事ができ、食事環境（形態含む）の変更を行う事が出来る。

A) 栄養アセスメントの確実な実行と遂行

②食生活の質を向上（おいしく、笑顔になれる食事の提供）

A) ゲストが目に見えて喜ばれる形を探し出す。

栄養アセスメントの書式変更を行なう事で、ゲストの変化に対して根拠をもって見る事が出来る様になった。モニタリングの方法としても、スタッフより毎月聞き取った情報を、個人毎に見られる形にした事で、食事に関する情報の変化を細かく見る事が出来る様になった。ご家族へも栄養科からの体重や対応の経過を3ヶ月に1回お送り出来る形を作り上げた。弥勒園として、今年度からとり始めた、経口維持加算Ⅰについて、1年間で約33

0万円の加算につなげる事が出来た。経口維持加算におけるミールラウンドを行なった事で、実際に食事量・体重・水分量の増加につながるゲストもみられ、良い結果となった。今後も、ソフト食を行なっている根拠を強みに、経口維持加算 I を継続してとっていきたい。

<年間行事食>

略語の説明→み (弥勒園) SS (ショートステイ)

月	年間行事	内容	施設
4月	もちつき	園内行事として餅つきを楽しんでいただき、紅白餅をつくり参加されたゲストへその場でおしるこを提供した。	み・SS
	1F お花見バイキング	風が強かったため、ホールにて松花堂弁当箱に桜の塩着けを添えて提供した。少しでもお花見気分を味わって頂くために、花壇を置いた。甘酒はお屠蘇の器で提供し、ゲストは楽しそうに何度も乾杯をしていました。	み・SS
	3F お花見	ホールでゲストとホットケーキを焼いたり、生クリームや果物を飾り、半月盆で提供した。	み
	家族食事会	おやつ作りでは、季節にあった桜もちをゲストに作っていただき、ご家族と一緒に食後に提供した。	み
5月	1F 中華バイキング	個々のゲストに、あんかけチャーハンをセットし、さらにテーブル中央にオードブルの様に綺麗に盛った、イカリング・シュウマイ・揚げ茄子・かに玉・皿そばを提供した。9種類の中華メニューを熱いまま提供する為にあんはフロアでかけて、オードブルにして各テーブルに置いた。テーブルにオードブルが置かれた瞬間に、ゲストが、我先にと自らの皿に好きなおかずを取り分けられる姿が見られとても生き生きとされていた。	み・SS
	家族食事会	おやつ作りでは、ゲストにじゃがいもを丸めて頂き、じゃがいも餅を作った。ご家族と一緒に食後に提供した。	み
6月	1F 洋食バイキング	星形オムレツとクリームシチュー、パン4種の中から選んで頂く形で提供した。また、後から揚げたてのエビフライを提供し、すごく喜ばれていた。	み・SS
	父の日	何種類ものおかきを大皿に盛り、提供した。見守る中、詰めることなく食べておりゲストの笑顔が見られた。	み・SS
	3F たこ焼きパーティー	たこ焼きを盛り付ける係りなど役割があるゲストは率先して動いて頂き、又たこ焼きの提供にゲストみんなが喜んでおかわりの声が多かった。	み
7月	1F そうめんバイキング	大きな寿司桶に冷やしそうめんを氷水と盛り付け、各テーブルに職員が回った。オリーブ素麺とごま素麺、にぎりを各テーブルに置き、見た目も楽しんで頂いた。「おいしくて止まらないよ～」と言われる方や、数日前に脳梗塞になり、食事量が落ちていた方が、麵極トロミを提供すると、喜んで食べてくださり沢山食べて頂いたのが印象的であった。	み・SS
	1F かき氷	いちご、メロン、ブルーハワイから選択。あんこ、ポッキー、コンデンスミルク、バナナを凍らしてヨナナスにしたものを盛り付け、屋台風提供した。	み・SS



	3 F 中華バイキング	個々のゲストに、あんかけチャーハンをセットし、さらにテーブル中央にオードブルの様に綺麗に盛った、イカリング・シュウマイ・揚げ茄子・かに玉・皿そばを提供した。9種類の中中華メニューを熱いまま提供する為に配膳直前に熱々のあんをかけて、オードブルにして各テーブルにおいた。ゲストがいつもより生き生きとしており、始終笑顔が見られた。	み
8月	3 F かき氷	いちご、メロン、ブルーハワイから選択。あんこ、コンデンスミルクを好みでトッピング。ヨナナスを用いて、凍らしたバナナ、黄桃缶、パインも添えて提供した。暑い日だったので、好評でおかわりするゲストもおられた。ヨナナスはなめらかで喉ごしよく、一部のミキサー食のゲストにも提供できた。	み
	1 F お好み焼き・焼きそばバイキング	お好み焼き3種、(海鮮、すじこん、キムチ)、焼きそば。食後のデザートにアイスクリーム。普段はあまり食事を食べられない方もお好み焼きを2枚もおかわりされていた。「美味しいね、ありがとう。」と笑顔で話されていた。又、食後のアイスクリームも好評であった。	み・SS
	いい肉の日	すき焼き風お弁当にして提供。ゲストはフタをあけると豪華で喜ばれており、「肉がやわらかくて美味しい。」と笑顔でした。	み・SS
	家族食事会	3Fゲスト2名と少ない数での実施だったが、そばちらしに大変満足されていた。食後のかき氷は、作るときの大きな音を聞き、楽しまれていた。ご自身で蜜を選んで頂き、たっぷりのあんこを添え、ミルクをかけて提供した。始終笑顔が絶えなかった。	み
9月	1 F パンバイキング	お重2段使用し、お重一段目にサンドイッチと菓子パン、二段目にエビフライ、ポテトフライ、ペンネナポリタン、レタスを添えてつまみやすいおかずを詰めて提供した。スタッフの「せーのっ」の声でお重を開けて頂き、喜んで頂いた。飲物はグラスにお好きな飲み物を選んで頂いた。	み・SS
	揚げ物バイキング	から揚げ2種(醤油・塩)、エビフライ、ミンチボール、カレー、バナナ、ジャガイモ、玉ねぎをゲストの前で揚げて、揚げたてを提供。人気なのは、度々提供するエビフライ。「おいしかったよ～」と笑顔で手を振って頂いた。弥勒園に入所してはじめてのバイキングのI様は涙を流しながら喜ばれていた。	み
	家族食事会	草餅作り。9月は誕生日者が多く、おやつ作りは3名のゲストが参加された。焼いた生地の上に餡子をのせて包む作業をして頂いた。ゲスト2名は補助しながら一緒に包んだ。「きれいですよ。ありがとうございます。」と声掛けをすると笑顔で一生懸命手を動かしていた。	み
10月	全館秋の味覚バイキング	ぶどう、梨、りんご、キウイを大皿で提供。予算の関係もあり各テーブルに大皿に盛って提供すると貧相に見えてしまった。「これだけ？」という声を聞き、個人盛りで提供した方がよかったとスタッフより聞く。次回する際は、果物の種類を増やし、配膳方法を個人盛りで提供する。	み・SS

	1 F さんまバイキング	さんまをゲストの目の前で焼き、さんまの香ばしい匂いがゲストに届き「わあ、おいしいそう。」の音が聞こえた。骨有さんま、骨無さんま、カレイの照り焼きを提供。骨無さんまが大人気で、想定した数では足りず、「もうないんか？」の音が聞かれた。食後は炭火で焼き芋。ほくほくの焼き芋に「おいしい」と始終笑顔だった。反省点として、バイキングが始まると同時に焼き芋の火を起こしておくべきだった。焼き芋に時間がかかり、居室に戻られた方もいた。	み・SS
	鯛の塩釜	家族食事会にて鯛の塩釜を提供。身がやわらかかった為、笑顔で食べて下さった。	み
	3 F さんま祭り	骨無さんまは食べやすく、普段カレイを食べられているゲストも問題なく摂取して頂いていたので、今回は骨無秋刀魚を増やして、骨有秋刀魚を減らすと丁度よい量になると考えられる。	み
11月	全館 焼き芋	あいにくの雨で焼き芋大会中止。常食、ソフト食のゲストには芋を3分割にして提供。スルー食はスイートポテトにして提供した。ボリュームがあって喜ばれていた。	み・SS
	1 F 土鍋バイキング	土鍋ご飯を4種(梅ひじき、柚子ツナえのき、鯛飯、炊き込みご飯)ゲストの前で炊いた。土鍋ご飯の香りが漂うと、ゲストがまだかと土鍋の周りに集まってきた。半月盆に見た目よく、盛り付けられて彩りよかった。特に鯛飯と柚子ツナえのきが好評。天ぷら(エビ、茄子、さつま芋)も揚げたてでおかわりされるゲストが多かった。	み・SS
	家族食事会	ゲストとご家族合わせて30名という大人数での開催となった。ゲストと一緒に作る手作りおやつではスイートポテトを作った。食事会の献立は松花堂にエビのしんじょう揚げ、厚焼き卵、焼き茄子、柿を詰めて提供。またご飯は土鍋に入れてフロアでよそい、あったかいご飯を提供出来た。粕汁は使い捨てのアルミすき鍋を使用し、フロアで一人一人の鍋に火をつけて熱々を提供し、喜んで頂けた。	み
	3 F おでん祭り	具は大根、ジャガイモ、肉団子、ウインナー、厚揚げ、ゆで卵、鶏もも肉、ちくわ、はんぺん、焼豆腐、しゅうまいの11種類。温められた土鍋から配膳していった。寒い日でもあり、ゲストは土鍋を開けて熱々のおでんをみると笑顔になり食べられた。配膳もスムーズに行え、始終ゲストは笑顔で和やかな雰囲気の中で行うことができた。	み
12月	全館お刺身提供	常食・ソフト食はマグロ3切れ、サーモン3切れ、エビ2尾、スルー食はマグロとサーモンのたたき、ミキサー食はマグロとサーモンのゼリー食2食盛りを提供した。お刺身の提供を楽しみに、ホールでまだかまだかとそわそわされている様子であった。	み・SS
	家族食事会	草餅をゲストと手作りした。餡子を丸めて頂いたり、焼いた草餅の生地に餡子を挟んで頂いた。「お上手ですね。すごくきれいです。」とお声を掛けると、とても笑顔で楽しんで頂いたご様子が伺えた。	み
	3 F クリスマス会	彩サラダに、メインにハンバーグシチュー。バスケットにエビフライ、鱈のムニエル、サンドイッチ3種(卵・ツナ・	み

		イチゴジャム)、プチカップのティラミス、ガラスのグラスにプチシューを詰めてオレンジをさしておしゃれに。特にサンドイッチは卵が人気であった。スタッフによるサンタからのお菓子プレゼントやダンスなどの出し物などで盛り上がりゲストは始終笑顔であった。	
	おしるこ	白玉粉に豆腐を加えたやわらか白玉をおしるこに入れて提供した。熱々を提供できたので、ゲストも甘い匂いにまだかまだかの声が聞かれた。白玉は柔らかくて食べやすく、またゲストみんな甘い物がお好きのため完食されていた。	み・SS
	1Fクリスマス会	例年行われているが、今年度は感染のため中止となった。	み・SS
	1Fコーヒー喫茶	10/7・11/4・12/6	み・SS
1月	全館 お正月お節	松花堂にお節を詰めて提供。施設長が挨拶され、一人一人のゲストへお屠蘇を注いで頂いた。ゲストはお正月を認識され、またお重を開けると豪華なお節に喜んでいた。「おめでたいね。」の声も多数聞かれた。	み・SS
	全館間食おしるこ	豆腐と白玉粉で作った白玉は柔らかく、スルー食のゲストも問題なく摂取して頂いた。「今日はおしるこですよ」と声掛けすると喜んでいるゲストが多く見られた。「なんぼでも食べられるで」「軟らかいわ」「美味しかったよ、ありがとう、ごちそうさま」等の声が聞かれ、温かいおしるこはいつ提供しても好評である。	み・SS
	家族食事会 ジャガ芋餅	ゲスト2名にてじゃが芋餅作りをした。手際良く、芋を丸めて頂いた。じゃが芋餅を焼いていると、香ばしい匂いに「ええ匂いやな～こんな初めてや」等の声が聞かれ、始終笑顔で作業して頂いた。	み
	3Fお茶会	ゲスト主体のお茶会。手作りおやつは桜餅と草餅でゲストと一緒に手作りした。各餅の生地をゲストに焼いて頂いた。「久しぶりにひっくり返すわ～懐かしい。私、お茶大好きです。」等、笑顔であった。各餅の生地が少し足らず、追加で厨房より上げて頂いた為、次回は量を今回の1.5倍量で用意したい。	み
2月	1F鍋バイキング	ちゃんこ鍋2種(常食とソフト・スルー食と形態別に)、雑炊を提供。ゲストの前に土鍋を置き、蓋を開けると湯気が立ち「おお！」の声。「早くよそって、よそって。」と待ち遠しい様子がみられた。温かい鍋に始終ゲストは笑顔であった。鍋の分量も丁度よかった。	み・SS
	3F粉ものバイキング	お好み焼きを3種(すじこん、豚、海鮮)、焼きそばを提供。普段、提供されないのでゲストは大興奮。甘いソースの香りにみんな笑顔だった。	み
	家族食事会	食後に手作りおやつのドーナツを提供。ミキサ一食のK様は、バイキングの時は軟らかそうなものを食べて頂けているので、揚げたてのドーナツを提供すると、しっかりと手に持ち問題なく摂取されていた。	み

3月	全館 いい肉の日	上質の肉をすき焼きとして提供。やわらかくて食べやすく、スルーのゲストも普段は肉団子でしか提供されないが、今回は団子でなく、ばら肉での提供に喜ばれていた。	み・SS
	1F おでんバイキング	毎年恒例のおでんバイキングを、今回は土鍋ではなく、「コンビニおでんみたいな具が分かれている感じ。」をホテルパンに具を入れ、それを餅箱に入れ、アルミの仕切りをして再現した。パントリーにておでん「和ちゃん」を開店。カウンターにゲストが座り、好きなおでんを選んで頂いた。寒さが残るこの時期に温かいおでんにゲストは始終笑顔であった。	み・SS
	3F 鍋バイキング	ちゃんこ鍋2種(常食・ソフト食スルー食)と雑炊を用意。寒さが残るこの時期の鍋に始終ゲストは笑顔であった。鍋の量は丁度よく、雑炊はやや減らしてもよいと感じた。また、バイキング等でしか漬物をあまり提供しないので普段から頻繁に取り入れていきたい。	み

## 10. 《大慈園事務部》

### <目標>

#### ①事務員間・担当部署・総務との情報共有の確立

##### A) 各担当部門の行事予定を把握し準備を行う

担当の行事予定をWEB予定表・部会を通して準備を個々に行えた。また、年末調整等の事務員が共通作業を行う際は、部会で手順を説明し徹底することができた。

##### B) 部会等の発言回数を増やす

部会で共通業務の説明を中堅事務員が行い、不明点や説明不足点への質問を行ったことで、個々の発言回数は増えた。

##### C) 引継ぎの徹底

総務との情報共有、提出物、都度指導が入る事により総務との連携については徹底できた。しかし、個々の業務への意識が薄くなり、単純ミスが目立つようになった。

##### D) 提出物の洗い出し

洗い出しは完了したが、新人は定期的な提出物に漏れは見られる。次年度は総務事務間の連絡回数が減るように提出物の徹底とその精度を上げていく。

#### ②事務員間の協力体制の構築

##### A) フォローを担当制にする

公休の事務員のフォロー、新人のフォローを担当者制にするも、多忙期に時間がなくフォローができない等の不満が多くみられたため、集中して業務を行う日を設けるも不満が残った。次年度は業務を2人に連携させた上で、施設毎の担当ではなく、支払の担当、〇〇の担当といった業務での担当分けを行い、フォロー体制を作る。

##### B) 問題点を部会で話し合いフォロー方法を検討する

部会で問題点を話し合った結果、集中して業務を行う日を設けるなど検討、実施してきたが、体制の構築には至らずであった。

11. 《行事等の実施内容・反省点》

<毎月定例行事> 1・3F共通

行事名	反省等																								
家族 食事会	ご家族から、食事時間が長いとの意見もあり、毎回開始前に気軽に申し出てもらうようお願いする事で、職員に対して声が多く掛かるようになった。ご家族からの意見に耳を傾けながら皆さんが楽しく家族との団らんを楽しめる会に出来たのではないかと思います。今後も細かな打ち合わせをしながら継続したい。																								
メイクボラン ティア	2ヶ月に1回のメイクボランティアも、当初は参加するゲストが少なかったが、回数が増えるごとにメイクの順番を待つゲストも出てくるようになった。仕上がったメイクを皆がほめるたり写真撮影をする事は、女性ゲストにとっては心地の良い事であったと思われる。																								
くもん式 学習療法	参加者6名～10名程度。3回/週を目途に学習療法士を取得した介護職員より実施している。効果測定として、FAB検査・MMSE検査を学習療法の参加前後に実施し、一部の参加ゲストに対し認知力の向上が見られた。今年度より、業務内に学習療法を組み込む事で、実施回数が増えたことが大変良かった。																								
園芸療法	<p>園芸療法士より1回/月の指導を仰ぎながら、職員と参加ゲストで植物を育て、下記のように季節に応じた製作作業を実施している。</p> <p>参加者の入れ替わりもあったが、ゲスト同士楽しく実施することが出来たと感じる。全員で一つの作品を作ったり、個人で作品を作り皆で協力し合いながら達成感も味わって頂けたと思う。また作品を展示し、毎日見に行く事を日課としており、ゲスト同士でのコミュニケーションの一つにもなっている。</p> <table border="1" data-bbox="371 1003 1129 1518"> <tbody> <tr><td>4月</td><td>花の寄せ植え</td></tr> <tr><td>5月</td><td>花の寄せ植えと手浴</td></tr> <tr><td>6月</td><td>多肉植物のガーデン</td></tr> <tr><td>7月</td><td>オリジナルうちわ作り</td></tr> <tr><td>8月</td><td>花の寄せ植え</td></tr> <tr><td>9月</td><td>花の寄せ植えと手浴</td></tr> <tr><td>10月</td><td>サフランの球根の鉢植え</td></tr> <tr><td>11月</td><td>ローズマリーのリース作り</td></tr> <tr><td>12月</td><td>花苗の球根の寄せ植え</td></tr> <tr><td>1月</td><td>寄せ植えの手入れ・松葉相撲大会</td></tr> <tr><td>2月</td><td>タネで絵を描こう</td></tr> <tr><td>3月</td><td>タネで絵を描こう</td></tr> </tbody> </table>	4月	花の寄せ植え	5月	花の寄せ植えと手浴	6月	多肉植物のガーデン	7月	オリジナルうちわ作り	8月	花の寄せ植え	9月	花の寄せ植えと手浴	10月	サフランの球根の鉢植え	11月	ローズマリーのリース作り	12月	花苗の球根の寄せ植え	1月	寄せ植えの手入れ・松葉相撲大会	2月	タネで絵を描こう	3月	タネで絵を描こう
4月	花の寄せ植え																								
5月	花の寄せ植えと手浴																								
6月	多肉植物のガーデン																								
7月	オリジナルうちわ作り																								
8月	花の寄せ植え																								
9月	花の寄せ植えと手浴																								
10月	サフランの球根の鉢植え																								
11月	ローズマリーのリース作り																								
12月	花苗の球根の寄せ植え																								
1月	寄せ植えの手入れ・松葉相撲大会																								
2月	タネで絵を描こう																								
3月	タネで絵を描こう																								
音楽療法	毎月4回音楽療法士の講師と職員で実施している。季節の歌、馴染みの歌を中心にセッションを実施したことにより、音楽を通して楽しい穏やかな交流の場の提供が出来たと思われる。毎回、固定曲を使用することは、利用者の記憶力の維持・発声・発語への促進につながったと思う。集団セッションであっても、一人ずつ発声をすることで、自己表現の拡大と自信の回復を促すことができた。自信が回復することは、周囲への関心が広がり、充実感・安心感・協調性につながっていると思われる。特に身体活動と楽器活動は、機能低下予防に大きな効果があると考えられる。今後もご利用者の皆様とのコミュニケーションを深め、音楽による心身の活性化を目指したいと考える。																								

<年間行事>

●プラム棟

日付	行事名	部署
4/6~1 1	お花見ドライブ	満開の時期を少し外したものの、桜が散るトンネルをくぐり、喜んで頂けた。また、プラム棟ゲスト全員参加する事が出来、ドライブ自体を喜ばれるゲストが多かった。
4/9	お花見バイキング	当日風が冷たく、急遽園内での実施となったが、机に春の花を飾り松花堂弁当を召し上がって頂けた。毎回、バイキングは好評で、普段自ら摂取されないゲストも、手を伸ばし、おにぎりなどを召し上がって頂けた。
5/10	母の日のお祝い	女性ゲスト全員に、男性職員よりカーネーションと感謝の手紙をお渡しした。いつもお手伝いをして下さるゲストにはお礼の言葉を等、ゲストそれぞれに合った内容の手紙に工夫した事で、何度も手紙を読まれたり、枕元に飾っておられるゲストもおられ、喜んで頂けた。
5/14	中華バイキング	各テーブルに中華のオードブルを準備し、好きな物を好きなだけご自身で召し上がって頂く様にした。また、餡かけ焼き飯は、アツアツの餡を配膳前にかける事で、出来たてを召し上がって頂けたと思う。毎回好評のバイキングであるが、今回もあつという間に完食であった。
6/11	洋食バイキング	ショート、プラム合同で実施。洋食は皆さんお好きなメニューであり、喜んで頂けたと思う。パンや飲み物も数種類準備し、選んで頂いた。今回もあつという間に終了した。
6/21	父の日のお祝い	ショート、プラムの男性ゲスト全員に、女性職員よりひまわりの花と手紙をお渡しした。また、ノンアルコールのビールとおつまみ（お菓子類）を準備し、男性ゲストの笑顔が印象的であった。
7/4・11	外出行事 (新開地劇場)	2日間に分けて、ゲスト6名と新開地劇場に行く。若い頃、お芝居を観に行かれていたゲストが多く、久しぶりの観劇はとても喜んで頂けた。また、芝居が終わると役者さん達との写真撮影もでき、自ら握手を求めに行かれるゲストもおられ、楽しんで頂けた。
7/9	素麺バイキング	素麺は、喉越しも良く食べやすいからか、何度もおかわりをされるゲストも多く、「夏やね」と周囲のゲストと話されながら召し上がっておられる方もおられた。
7/14	かき氷屋さん	プラム棟ホールにかき氷機を準備し、ゲストの前でかき氷を作り、シロップを選んで頂いた。トッピングにポッキーや練乳、小豆なども飾りつけをすると「わあ～美味しそう」と喜ばれるゲストもおられた。あつという間に召し上がられるゲストが多くおられたが、ショートステイゲストは「冷たい物はいやや」と言う方が多く不評だった。
8/7	プチ納涼祭	プラム・SSゲスト全員参加で夕暮れに外に出て頂き、手持ち花火を楽しんで頂いた。花火を手にする「懐かしいな」「綺麗やな」と話されるゲストや、終了後には「楽しかった。ありがとう。」と感謝の言葉を述べられるゲストが多くおられた。花火の後は、スイカを食べ、昔家で家族と一緒に花火やスイカを食べられた懐かしい夏を思い出して頂けたのではないかと感じる。
8/12	お好み焼きバイキング	ホットプレートに焼きたてのお好み焼きをのせ、焼きたてのお好み焼きと焼きそばを召し上がって頂けた。普段あまり食事を摂られないゲストも何度もおかわりをされたりと、お好み焼きは皆さん大好評であった。ソースのいい香りが部屋中に漂い、食欲も増したようであった。

9/10	パンバイキング	サンドイッチや、アンパンをお重に盛り付け、2段目にはエビフライなどの洋食を入れランチボックス風にして、見た目も楽しんで頂けた。サンドイッチは、好評であり、何度もおかわりをされる方がおられた。エビフライはいつも皆さんの好物で、手で食べられる方が多く、1本では物足りなさそうであった。
10/8	秋刀魚バイキング	プラム棟、SS合同で実施。園庭で秋刀魚バイキングを行った。目の前にコンロを置き、秋刀魚を温め、香りも楽しんで頂ける様に工夫し、秋刀魚は手掴みで食べられる方も多くおられた。食後は、炭をおこし焼き芋も召し上がって頂いた。
10/13	どら焼き作り	役割分担をし、おやつ作りに多くのゲストが参加された。目の前で作った物を、みなさんで「おいしいね。」と嬉しそうな表情で召し上がって頂け、大変良かった。反省点としては、生地が少なかったこともあり、どら焼きまではいかず、パンケーキのようになってしまったが、テーブルを囲み、皆で作る事で特に女性ゲストは、主婦時代を思い出された方もおられたのではないかと思います。
10/16	外出行事 (大蔵海岸で釣り)	毎年恒例の魚釣りは、毎年参加されるゲストの楽しみであり、今年度も事故なく実施することができた。釣りの後は、外食も楽しまれ、久しぶりの外出で、気分転換も出来たのではないかと思います。
11/5	土鍋バイキング	鯛ご飯、ひじきご飯、ツナご飯、炊き込みご飯の4種類をプラム棟内で炊き、好きなご飯を召し上がって頂いた。特に尾頭付きの鯛ご飯が大好評であった。炊き立ての温かいご飯にエビの天ぷらで、沢山召し上がって頂く事が出来た。
11/14・28	喫茶店へ 行こう	西神南の喫茶店へ2日間に分けてゲスト5名と行き、食べたい物を選んで召し上がって頂いた。皆さん甘い物を召し上がり、喜んで頂いた。
12/22	クリスマス会	予定していた、昼食バイキングは感染対応後で中止としたが、お菓子とジュースを購入し、着ぐるみを着た職員がクリスマスソングを歌っているのを見てもらいながら、お菓子とジュースを召し上がって頂いた。プラム、SS合同で実施したが、顔見知りの職員の着ぐるみ姿を見て、笑われる方も多く盛り上がった。
1/1	おせちバイキング	今回はオードブル形式ではなく、各自一つ一つのお重でおせち料理を楽しんで頂いた。元旦であると認識されている方は特に喜ばれていた。数の子や黒豆を見て、「私も昔はおせち作ったよ」等と会話も弾んでおられた。
1/2	諏訪神社 初詣	プラムゲスト全員とショートゲスト11名参加で実施した。2日という事もあり、参拝客が多かったが、事故なく参加者全員が手あわせ参拝することが出来良かった。参加者人数が多い事から、何往復もする事で、ゆっくりと初詣を楽しむまでとはいかなかった。来年度は、おみくじもして頂き、初詣の雰囲気をもっと味わって頂ける様に計画したい。
1/31	外出行事 (喫茶店)	看取りゲストと担当で喫茶店に行く。以前お寿司を食べに行った際は、全く召し上がられなかったが今回は昼食ではなく、ゲストの好きな甘い物を食べに行く計画を立てた。喫茶店では、ホットサンドを選ばれて、「美味しい。」と、沢山召し上がられた。帰園後、「良い所に行ってきたよ。」と話され、とても喜んで頂いた様子だった。
2/3	節分	職員が鬼の着ぐるみを着て、豆に見立てた玉を投げて頂いた。鬼を見て「いや〜怖い〜」と怖がられる方や、「あっち行け〜鬼は外〜」と玉を必死で投げられる方等、楽しんで頂く事が出来た。
2/11	ちゃんこ	インフルエンザ感染者がおられたので、今回はプラム棟、ショート

	鍋バイキング	別々で実施する。普段、鍋料理を召し上がる機会がほとんどないので、温かいちゃんこ鍋を見ると、「わぁ、おいしそうやね」等と話されゲストの笑顔が多く見られた。鍋の後の雑炊もあつという間になくなり、この時期ならではのメニューであったと思う。
3/11	おでんバイキング	プラムゲスト、SSゲスト合同で実施。屋台風のおでん屋さんをイメージし、カウンター席も作り、実施することが出来た。カウンターでノンアルコールを飲みながら、おでんを召し上がったゲストもおられ、いつもと違った雰囲気バイキングをすることが出来、職員もゲストも大満足であった。

● 3F

日付	行事名	内容
4/15	桜舞うお花見パーティー	園内にて華やかな飾り付けを行い、ホットケーキ作りを行い、賑やかで良い雰囲気となった。計画通り、成功で終えた。
5/10	母の日お祝い	毎年恒例の母の日のお祝いを実施。カーネーション贈呈と撮影会を実施し計画通りに終了した。
5/16	お好み焼き外出	N様お好み焼きを食べに行く！！を実施。入退院等、大きく環境・体調の変化を伴ったゲストからの一声で始まった企画。企画実行後は満足された表情浮かべられ成功であった。
6/25	たこ焼きパーティー	常食を食べられているゲストからすれば物足りない様子であったが、企画通りに終えた。
7/16	中華バイキング	各卓へ中華のオードブル（バイキング形式）を出す。普段、食する機会が少ない一品に対し「美味しい」との声が沢山あがった。
7/30	園外外出行事（個別）	H様の個別外出計画を実施。西神南駅周辺と商業施設を周り、とても喜んでおられる表情を伺え、計画通りに実施。
8/27	夏祭り&花火大会	昼食時に素麺大会を実施。後、各ゲストに千本くじを引いて頂き、景品をプレゼント。夕方からは花火大会を実施した。
9/10	園外外出行事（個別）	F様の個別外出計画を実施。ご家族もお誘いし、一緒に垂水のブルメールへ出向く。とても喜んでおられる表情が伺えた。
9/16	園外外出行事（個別）	H様の個別外出計画を実施。西神中央駅の商業施設を周り、目当ての商品を購入できた。
9/17	から揚げ祭り	大人気の食事行事の開催もあって、毎回、揚げ物は大変喜ばれている。『美味しかった』との声が沢山聞けた。
10/27	秋のさんま祭り	年間での恒例行事となっている。今年もご好評頂き、喜びの声を多く頂くことができた。計画通りの大成功となった。
11/8	個別計画（一時帰宅）	ご家族との調整の上、M様をご自宅に帰られる支援を行った。昔話をされたり、会話がはずまれている様子を伺うと、大成功であった。
11/19	皆で温まる！おでん祭り	恒例行事であり、今年も大好評であった。
12/8	園外外出行事（個別）	地元である太山寺を散策した。紅葉がとてもきれいで、すごく嬉しそうな表情をされていたのが、印象であった。
12/24	Xmas会&忘年会	ご家族をお招きしての行事ではなく、今回はゲストだけの行事として開催した。職員が協力して出し物を行い、計画通りに実行できた。
1/8	諏訪神社へ新年のご挨拶	近くの神社に久しぶりの外出。「初詣は久しぶりです」と、お連れしたゲストも大喜びでした。



1/22	新春・お茶会	お餅作りから手伝って頂いた後、お抹茶も点て、みんなでお茶を楽しみました。計画通り、実行し大成功に終わった。
2/18	粉物祭り	年間における恒例行事である。今年も大好評に終え、計画通りに実施。
3/10	明石公園の梅の花を求めて	明石公園に咲く梅の花を求めて、ゲスト2名をお連れした。結果、梅の花は咲いていなかったが、「楽しかった、このことは忘れない」とのお言葉を頂戴した。
3/15	癒しを求めて!いざ神出の地へ	西区にある「かんでかんで」のバイキングレストランへ2名をお連れした。個別計画として企画し、計画通りに大成功に終わった。
3/23	平野祇園神社参拝	看取り対応者の個別外出を実施。ご本人の要望からケアプランの目標に掲げ、懐かしの祇園神社へ外出。桜も咲いており、ご家族共に大喜び。大成功に終わった。
3/24	鍋パーティー	年間における恒例行事である。今年も大好評に終え、計画通りに実施。

## 12. <職員会議・OFF-JT>

頻度	会議名				
月1回	看取り・褥瘡委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	主任会議	行事委員会	部門会議	給食委員会
	マナーアップ委員会	全体会議(1F・3F)	非常災害時対策委員会	デイ検討委員会	正副施設長会議
	人事委員会	研修委員会	予算委員会	広報委員会	
	オムツゼロ委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	
随時	ケアカンファレンス		人事検討委員会		

日付	研修会内容	参加人数
4/22	経管栄養について、心肺蘇生法	33名
5/27	認知症サポーター研修、グループ討議	27名
6/24	看取り介護事例発表、栄養管理	26名
7/29	危険予知訓練、職場の感染対策	23名
8/26	B C P・マニュアル	27名
9/2・9・16	虐待防止研修	全職員
10/28	吸引実技	26名
11/25	D-1グランプリ	42名
12/23	健診結果と対策、腰痛予防の介助法	39名
1/27	心肺蘇生	25名
2/24	腰痛対策、嘔吐処理実践	33名
3/29	昇級・昇格者決意発表、看取りDVD	29名

## 13. <会議等の実施内容及び反省点>

### ①ケアカンファレンス(原則毎週水曜開催)

→ご家族・担当者がより良いサービス提供する為に開催。その際現状報告と前回会議後からの

経過等も報告した。又、状態変化があれば、ミニカンファレンスを適時開催している。

②人事評価検討会議（年4回程度）

→人事評価の検討会議。新制度熟成に焦点をあて、目標管理制度の習熟度を向上させるよう図った。しかし、事業計画から個人目標にうまく落とせない管理者もあり、次年度への課題として残った。

③事故再発防止対策委員会（毎月第2水曜日）

→委員会立ち上げからの絶対的目標である「付き添い・見守り介助時の事故発生率0%」は、達成される事はなかったが、年々減少傾向にあるのは手応えとして感じられる。今年度、導入予定であった、危険予知能力向上（KYT法）を次年度において定着させる事により、報告件数が更に減少する事を期待したい。他部署との連携についても、委員会を通してではなく、各部署担当委員が行動を取る事により、早い段階での対応策が現場内で周知出来る様になって来ており、良い傾向にあると思われる。一方で課題も見えてきており、服薬ミス等が少し目立った年度となった様に思え、次年度の課題の一つとして受け止めて、委員一体となって誤薬を防げるシステム作りをして行きたい。身体拘束等によるリスク回避を図った対象ゲストは今年度0件であった。

④感染症防止対策委員会（毎月第3水曜日開催）

→今年度の目標である園内での感染症発症0%を達成することは出来なかったが、最少限にとどめることができたことは評価できる。又、施設内での感染状況に関しても、必要時に緊急感染防止対策委員会を開催することで情報共有することができ、尚且つ早期に対応したことが最少限度に繋がった経緯だと考えられる。次年度は、各部署の感染委員を中心に感染に対する意識向上に努めていきたい。又、感染を予防するためには、職員一人ひとりの意識づけが必要であり感染防止ができるよう意識改革していきたい。

⑤サービス向上委員会（毎月第3水曜日開催）

→昨年度より引き続き、5S活動に注力した取り組みを行った。定期的に部署巡回や他者評価を取り入れる事で、少しずつ意識向上は実感出来た。直接的に介護に関わる部分ではないが、「ルールへの順守」という意味では一つの指標にも出来る取り組みであったと感じる。底辺の部分でもあり、一朝一夕で改善は難しいと思われるが、継続的に取り組む事で職員一人一人の意識向上に繋げたい。

⑥非常災害時対策委員会（毎月第4水曜日開催）

→今年度は、各部署でBCP作成を行い、OFF-JTで初めて図上訓練を行った。参加職員は興味深く災害時の行動確認を行い、マニュアルの見直しができる貴重な意見が多く挙がっていた。福祉避難所としてのBCPの詰めは来年度に持越しとなったが、心構えを含め災害への備えにむけて前進できた。今年度は災害・防災に対する予防の面について触れる機会が少なかったため、来年度の課題である。

⑦看取り・褥瘡委員会（毎月第4月曜日開催）

→「安心して死ねる場所」を合言葉に、園で自然な形で最期を望まれるゲストに、より良い最期を迎えて頂く為の援助、環境整備等の検討を行っている。昨年度に引き続き、看取り勉強会を開催した。看取り期のお話をする際に「勉強会で聞きました」と話される方が多く、以前に比べ看取りの導入もスムーズになったように感じる。今後も継続していくことでご家族の看取りへの認知度が上がり、一層の協力が得られやすくなると思われる。また看取り終了後のカンファレンスのあり方に関しては今後書式を検討しなおすことから開始していきたいと思っており、次年度の課題としている。家族教育はもちろん、スタッフの入れ替わりもありスポットパート等の職員教育をどのように行っていくのが課題であると思われる。

⑧給食委員会（毎月第1水曜日開催）

→『ゲストの満足』と『厨房職員負担軽減』と『介護スタッフの負担軽減と満足』の3つすべ

てが上手く行く為に、今年度行った大きな変更5点について(①間食のおやつをなくし、水分を選べる形にする②人気があるおやつ、季節のおやつを月3~4回出す。③朝食時の菓子パンを週3回→4回にする④生の野菜を増やす⑤刺身、いい肉の日を年3回入れる) 職員からのアンケートをとった結果、おおむね好評であった。しかし、④の生の野菜だけは、変更した事が分からなかったという意見が多く、来年度、どの様にしていくなか検討していきたい。

#### ⑨マナーアップ委員会 (毎月第4木曜日開催)

→フロア巡回では整理整頓の他に挨拶や服装等もチェックし結果を各部署に配布し少しではあるが、出来ていなかった事が改善されたように思われる。D-1グランプリでは第1回目に比べ盛り上がりには欠けたように思われる。また、一部の職員のみが参加するものであった為、28年度より全員が参加できる目的があるものにし、少しでも楽しく学べるものに委員会内で検討していきたい。

#### ⑩一元化委員会 (毎月第3月曜日開催)

→大きな成果は上がらなかったが、看取りケアを通して、導入時期について考える場面が多く、結果的にはカンファレンス等を頻回に行う中で情報共有を行う形式になっていた。以前から情報の「発信」と「確認」の強化が課題と考えられてきたが、改善を図る為のルールやシステム作りは困難と思われる。今後も、多職種合同でのカンファレンスを実施する中で、それぞれの思いや視点を共有し、少しずつでも基準作りを行っていききたい。

#### ⑪医療的ケア委員会 (毎月1回開催)

→医療的ケア委員からの発信を中心にケマネジャー・主任・リーダーの協力を得て、今年度は特に膀胱留置カテーテル装着者の管理やトランスについての実践方法をパワーポイントなどを用いて作成している。スポットパート等の短時間労働の職員への指導へ活用できた。医療的ケアについての意識改革に関して、まずは現場のリーダーや日誌作成者にどのように関わりを持ってもらい発信してもらおうのか、指摘や注意をしてもらえるのかは、今後の長期的な課題であると思われる。

#### ⑫学習療法推進会議 (毎月1回)

→専門的なケアへ落とし込む事が最終的な目標であるが、効果を正確に把握する為にも支援者のスキル向上を図っていく必要を強く感じる。

#### ⑬事業戦略推進委員会 (毎月1回開催)

→老人部門の全事業所が集まり、法人内の共通の課題に対して様々な取り組みを行っている。今年度は、新卒採用計画の実行や法人70周年の記念行事の計画等を行った。新卒採用は年々効果が上がっており、7名採用するまでに至った。次年度も更に計画を充実させていきたい。

#### ⑭大慈労働衛生委員会 (毎月1回)

→職員の労働環境改善のため、各職種が集まって開催している。今年度は、職員健診結果で、「脂質異常症」と連続2回診断された介護職員に対する面接を実施した。意識向上に役立ち改善がみられている。

#### ⑮大慈広報委員会 (毎月1回)

→大慈広報委員会と行事委員会が合併し活動をスタートした27年度。広報活動としてホームページの集客ユーザー数23,831名が訪問され目標達成率132.4%と驚異的な数字となった。又、フォトコンテストに関しては全国老協・ハッピーパックの両コンテストで入賞し、入賞作品が法人パンフレットの表紙を飾った。機関誌だいの森に関しては業者変更し、コストの削減と共にカラーに変更。又、中身(内容)の向上からコストパフォーマンスも格段高いものとなった。各種行事に関しては、創立記念・地藏盆・秋祭り・職員ボーリング・桜フェスティバルを開催・運営し、内容変更や一部継続を行いながら、企画に影響するような問題発生せず、無事開催することができた。次年度にはこれまでの運営実績や分析値を基に広報力が高まるよう、ホームページを大幅に変更予定としている。

⑩大慈人事委員会（毎月1回）

→新規施設（智音園）の開設もあり、新人教育制度を考案・導入。事業所間でも、統一感がなく曖昧となっている部分であったが、「評価」から考える事で、システム全体を一新する事が出来た。人事の根幹ともなる為、OJT担当者や評価者へのフォローアップを行いながら、今後もより良いシステムと改善していけるよう継続的に見直しを図りたい。

⑪大慈研修委員会（毎月1回）

→新人研修や辞令交付式等、法人間の研修等を実施している。新人研修において、講師評価や研修者習熟度テストを導入し、一定の成果がでた。次年度も、更に向上させたい。

⑫大慈社会貢献委員会（毎月1回）

→地域行事への参加を実施すると共に、「いきいきライフセミナー」を地域の公民館にて実施し、健康相談等大慈園が持っている知識や技術を提供できた。次年度は、認知症サポーター育成にも取り組みたい。

14. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数

前年度に比べ事故報告47件増加。3Fでは減少したが、1Fでの増加が多く委員会で、再検討中である。

○27年度報告件数

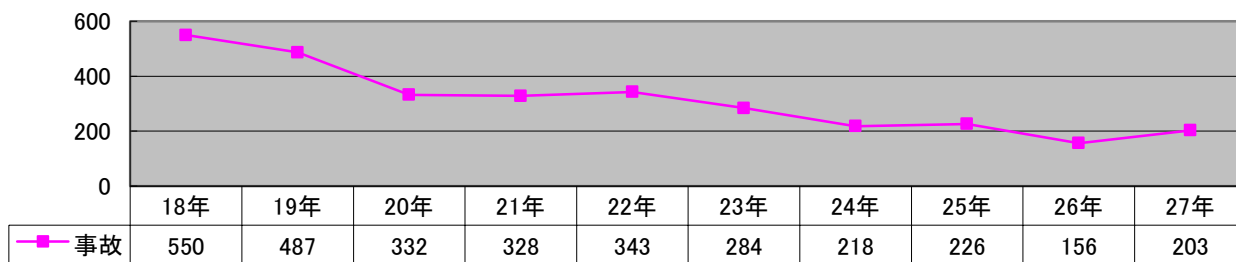
1F

5月の事故件数が多いのは、食事行事に配薬忘れがあったためである。4月から食事行事の担当が変わり、行事の際の細かな業務の打ち合わせが十分でなかった為、配薬忘れにつながってしまった。担当者と振り返りを行い、現在は食事業務の際担当者から業務の振り分けを行うことで改善している。今年度は日中の傾眠を少なくし夜間熟睡できるよう対策を考え実施しており下半期には効果が出てきている。また7、8月に事故件数が増加しているが、新人職員が増え未熟な介護技術による事故である。そのため新人職員対象に介護技術の基本を指導するプチ研修を行うことで減少している。今後も事故を回避するためにも継続して行きたい。

3F

ドキドキ・事故件数共に、減少値を示している。ドキドキ・事故報告件数を比較すると、下半期は上半期に比べハイリスク者の減少が読み取れる。反面、起因の一つである類似事故や職員のミスによる事故件数の減少には至っていない。今年度から本格始動したKYT法の導入や、事故原因の追及及び発生後の評価が不十分である事が原因としてあげられる。次年度は、根本にある情報の共有方法を見直し、PDCAサイクルに基づいた取り組みを徹底し、事故発生率の減少を図る。

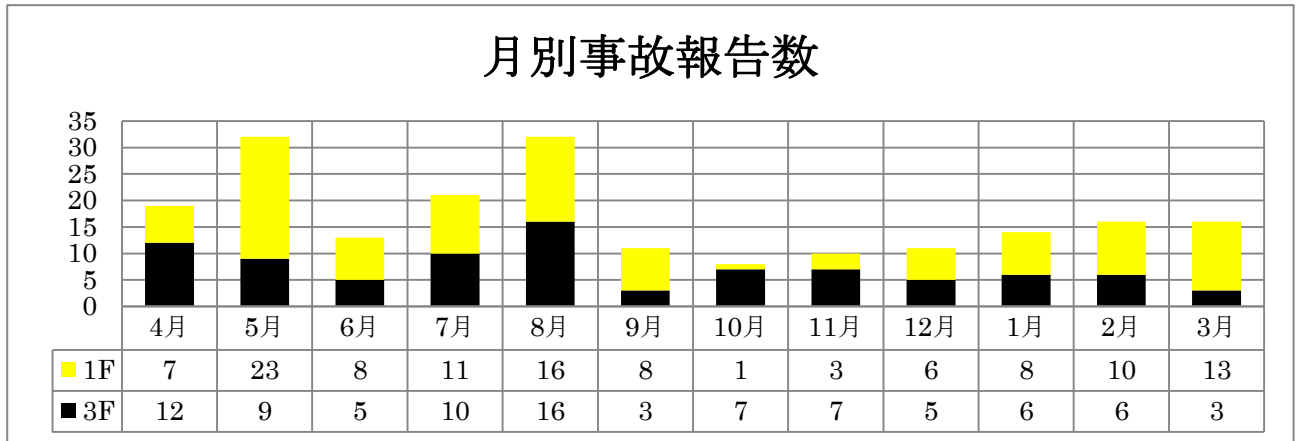
年度別事故件数



27年度				26年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	4,066件	203件	3,863件		4,560件	156件	4,404件

○内訳

27年度				26年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
1F	3,198件	114件	3,084件	1F	3,143件	62件	3,081件
3F	868件	89件	779件	3F	1,017件	94件	923件



## ②発生場所別件数

### 1F

事故件数では居室と食堂の事故が中心である。居室に関してはハイリスク者の転倒、滑落事故が中心である。しかしドキドキ件数と比較すると事故件数が低いのはセンサー対応が迅速にでき事故の回避につながっている。食堂の事故に関してはゲストの認知症の進行に対して行動の予測ができず起きた事故と新人職員がハイリスクゲストに対し背を向け他のゲストのケアをしたため転倒事故が繰り返し起こってしまった。ハイリスク者の座席の見直し、職員の見守時の配置も考慮することで事故の回避ができています。事故の際、ゲストの行動や職員の行動を振り返り原因を考えることで再発事故の予防に努めたい。

### 3F

例年同様、居室内での報告件数が最も高い。前年度、食堂での報告件数が増加していたが、スポットパート（時短）をホール業務に1名配置した事や職員間での引継ぎが上手く機能し、約40人程が過ごされているホール内での日中事故件数は減少している。人員数が少ない場面での事故はやはり多く、職員の意識（危機管理）はもちろんであるが、人員配置の見直しを再度検討する必要がある。



### ③発生状況別件数

#### 1F

歩行時の転倒事故の原因としてはゲストの歩行状態の変化に対し敏速な対応ができていなかったことや、新人職員がその状態に合わせた対応ができていないことも原因の一つとして考えられる。また便座使用時の事故に関しては、リスクのあるゲストを排泄中に見守りの目を離したことで、起きた事故でありリスクに対し意識が低いことが分かる。目を離すことでゲストの先の行動を予測し事故の回避につながるかをしっかり振り返り指導していく必要がある。そのため事故を予測したリスクを普段から考える機会を持つことでリスクに対する意識の向上につなげていく必要がある。

#### 3F

昨年度同様、夜間帯のドキドキ件数が多く、大半を臥床時のドキドキ件数が占めている中、ベッドセンサーの設定ミスや起動確認を怠った事で事故に繋がったケースもあった。啓発ポスターやセンサー使用一覧表を活用する事でミスは減っている。今後も、臥床時の報告件数が最も高い数値となる事は予測でき、ゲストの細かな情報共有が必要であり、それに応じた介護機器の活用が求められる。



### ④発生内容別件数

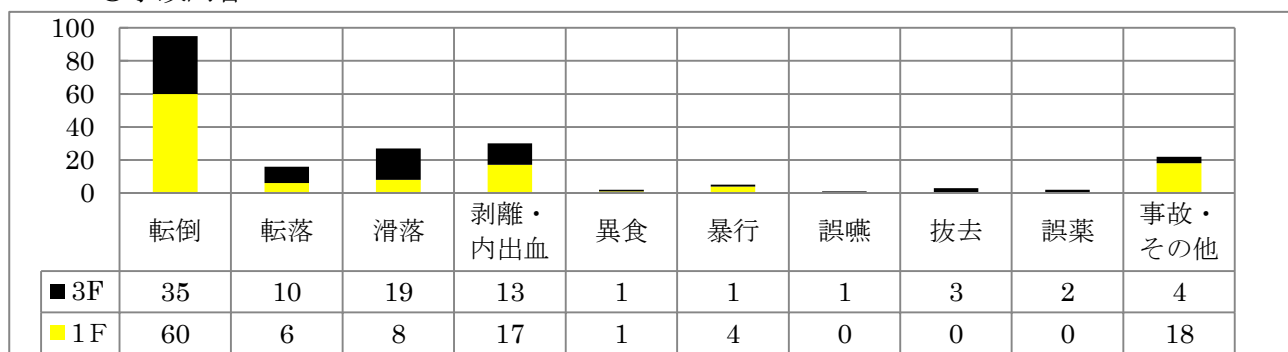
#### 1F

剥離、内出血事故が多いことで考えられる原因としては、介護技術の未熟さがある。立ち上がりの際や誘導の際の職員が、ゲストを支えるために持つ手の位置や力加減による事故となっている。新人職員が増えると必ず起こる事故であるため、今後は新人職員が入った場合の指導として剥離や内出血を想定した技術向上の指導も行っていくことで事故回避につなげていきたい。

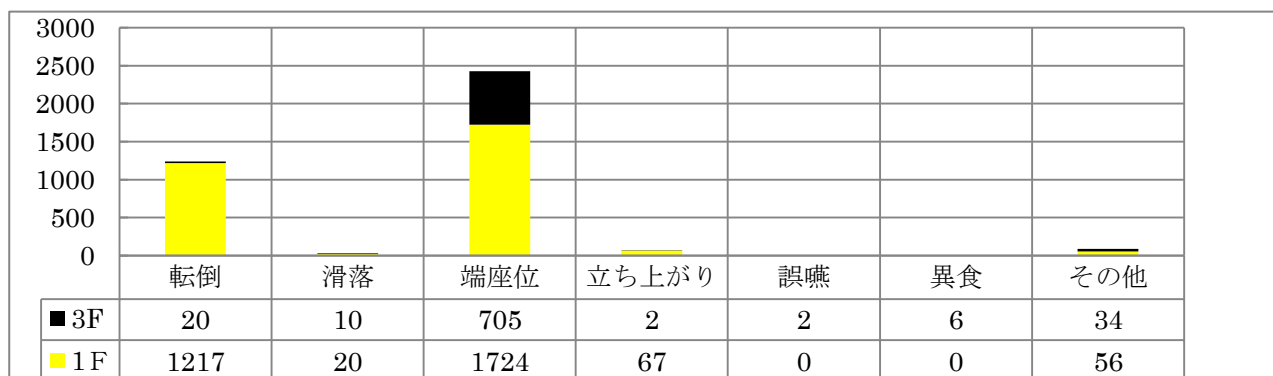
#### 3F

内容別による報告件数はすべて減少値を示した。しかし、特定ゲストの類似事故が大半を占めている。転倒件数が多い原因としても、職員の見守り不十分やサポート時によるものが多く、職員への教育・指導(危険予測・危機管理)や人員配置の見直しが最重要課題としてあげられる。よって、事故再発防止対策委員会での課題改善目標である『付き添い・見守り時の事故0%』も達成出来なかった。

○事故内容



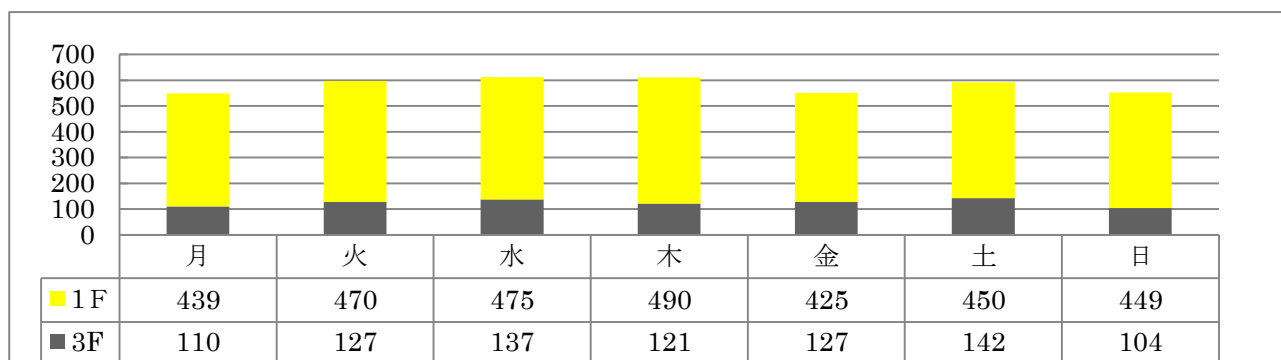
○ドキドキ内容



⑤曜日別件数

1F・3F

曜日別に関しては、ドキドキ・事故共に大きな差は見られない。出勤状況や職員数関係なく、職員の危機管理に対する意識が向上しつつある事が推測される。



⑥時間帯別件数 ※割合→全体に占める割合

早朝 4:00~6:59    朝 7:00~11:59    昼 12:00~16:59  
 夜 17:00~22:59    深夜 23:00~3:59

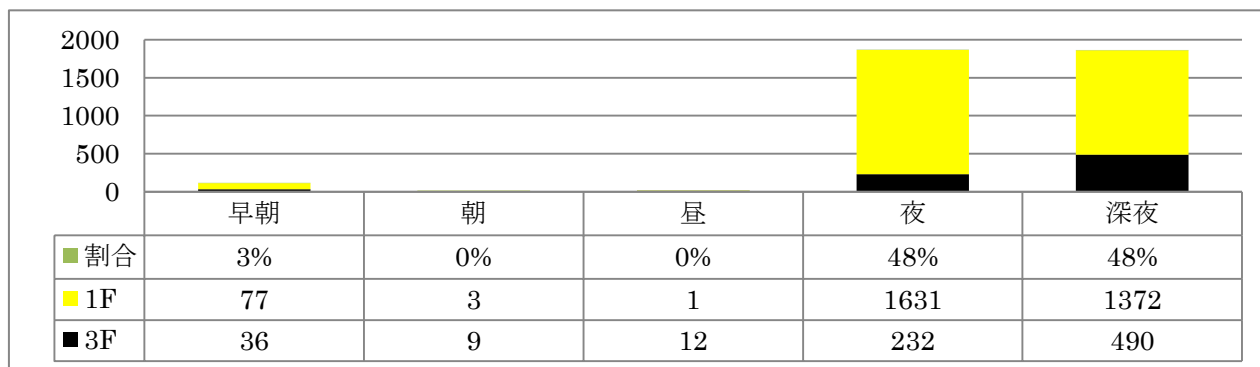
1F

夜間のドキドキ件数が多いが深夜から減少し始め早朝には激減する。夜間入眠するまでのセンサー対応が大半であり深夜はトイレなどの反応である。このことから朝までゲストがしっかりと入眠できていると考えられる。そのため深夜から早朝にかけての事故件数も少ない結果となっている。要因としては日中にゲスト個人や全員を対象にレクリエーションを毎日定期的実施することで、日中活動的に生活ができ夜間熟睡につながっている。今後も夜間良眠につなげるためにもゲストの興味の持てるレクリエーションの考案をし実施継続していく。

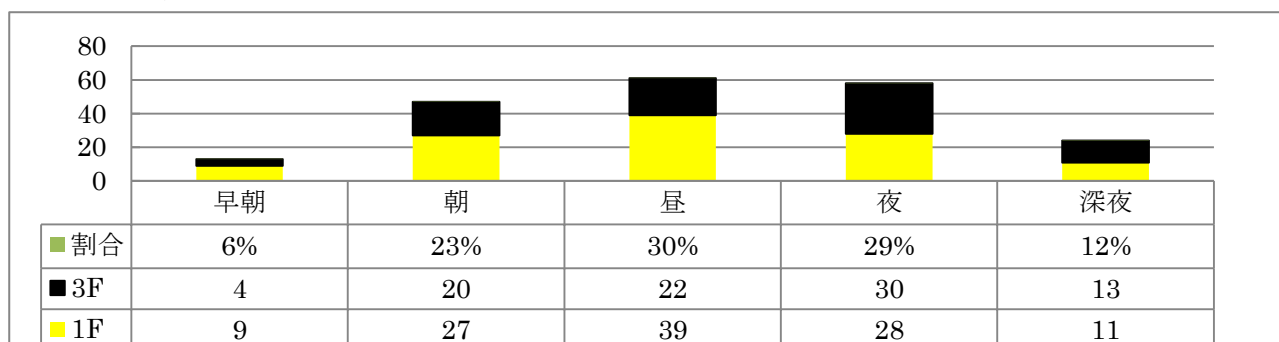
### 3 F

前年度同様、事故件数が最も多いのは朝～夜にかけての時間であった。日中に正規職員が少なく、非正規職員への負担が大きくなった事も事実としてある。又、職員が交代する時間帯でもあり、情報の伝達が不十分であった為に起きた事故も多かった。反面、深夜～早朝にかけての事故件数が少ないのは、ゲストの夜間良眠もあるが、特定ハイリスクパーソンの夜間帯ドキドキ件数が多い事で、職員個々で危険意識を持った行動がとれ、考えられるリスクや対策が上手く機能した事が数値から読み取れる。

#### ○ドキドキの時間帯



#### ○事故の時間帯



#### ⑦まとめ

##### 1 F

パート職員のリスクに対する意識が低く、身勝手な介護をする職員がおり指導しても理解、改善できなかった。そのため、多様な業務の配置ができず特定の業務の配置にする対策をした。時間帯で昼の事故が多いのもその要因もあった。下半期に新人職員を対象に基本的な介護力向上の研修をすることで剥離、内出血などの未熟な介護技術による事故も減少していった。このことから短時間パートや新人職員の介護技術向上のための研修を定期的実施することで事故の回避に努めていく必要がある。また職員全員にリスクに対する意識の向上を図るため、日々の業務の中でドキドキを見つけ職員間で共有していきたい。

##### 3 F

ドキドキ・事故報告件数が昨年度に比べ減少している。しかし、上記項目でも記載した通り、事故再発防止対策委員会の目標である、『付き添い・見守り時の事故発生率0%』『類似事故の減少』には至っていない。ハイリスク者への危険意識は向上しているが、突発的に起こる事故を予測した行動や日々の観察から見えてくる不安全状態・行動に対し迅速な対応が出来なかった事で事故に繋がったケースも多く、普段からの助言や指導等、委員としての役割が十分に果たせていないのも事実としてある。反面、人員配置を変更した事で時間帯によっては事故件数の減少に繋がった事も数値からは読み取れる。次年度においては、根本である情報共有方法を見直し、啓発ポスターの活用やKYT法の定期的な実施による職員個々の危機管理能力の向上を図り、状況に応じた人員配置の変更を行う事で目標



達成を目指したい。

15. <<苦情・相談結果報告>>

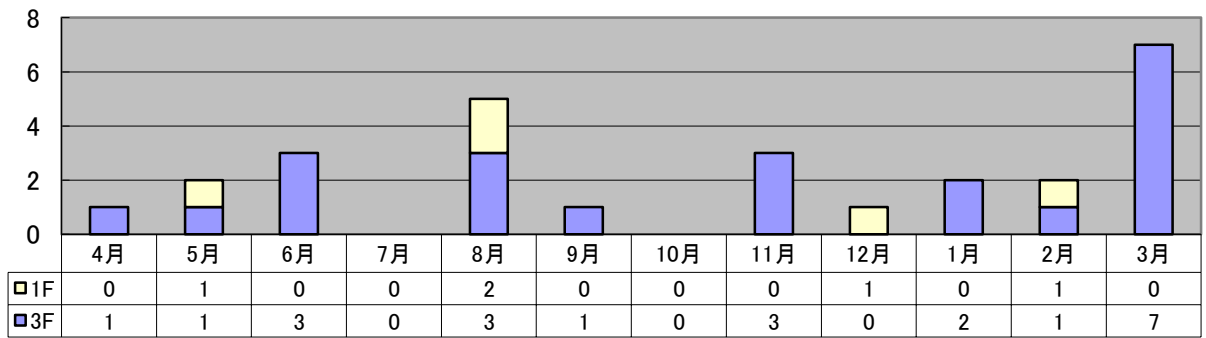
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

27年度				26年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	27件	0件	27件		37件	0件	37件

○内訳

27年度				26年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
1F	5件	0件	5件	1F	14件	0件	14件
3F	22件	0件	22件	3F	23件	0件	23件



**要望分類**

	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
■ 3F	16	0	3	8	3	0	0
■ 1F	4	0	2	3	0	0	0

※複数回答しているため件数が多い。

○主要内容

1F→職員のミスによる事故。リネンの汚染やタンスの破損を御家族が発見する。職員がゲストの物品を自己判断で使用しゲストが立腹する。利用期間が長いゲストのご家族から、居室の環境整備と馴染みの職員が減った事の談。

3F→個人物品の管理不足・家族様から依頼された個別ケア・ゲストの日常生活リズムと、当園での生活時間とのギャップ等

## ○まとめ

### プラム棟

職員のミスや自己判断・報告遅れ・環境面での不備等で、ご家族が不満や不信に感じる事が多く、相談に繋がったが、随時対応し、その後は特に問題みられていない。ご家族からの相談が多く、ゲストからの相談や苦情は少なかった。認知症棟という事もあり発信するのが困難なゲストも多い為、来年度はゲストの言動に注意する事で、ゲストからの相談・苦情に対応・改善し、よりよいフロアを作っていきたい。

### 一般棟

類似の相談件数が後を絶たない。個別ケアが重要視されてきている中で、家族様からの細かな要望に対し、部署内での周知が行き渡っていないのが現状である。周知の確認作業において、正規職員をはじめ、時短契約の職員にまで一つの相談内容に対する背景の部分まで説明出来ていないのが大きな理由といえる。また、相談内容への初期対応の遅れが見られることもあり、職員が増員することにより窓口の増加も原因の一つと考えられる。次年度においては、業務内における人員配置の見直しや、情報の整理が出来るようなシステム作りを目指していきたい。

## 15. 《総括》

### ①プラム棟

生きがい部門、環境部門と2年目となって、チームワークを高めながら、各部門それぞれが、事業目標を意識しながら取り組めた。環境整備に関しては、職員個々の意識が低く、当たり前前のが出来ない為、チェックシートを使ったり、ルールが多くなっているのが現状である。ルールや決まりごとが増える事で、余計な作業を行わないといけなくなり、業務の負担が増えてしまう為、来年度は、職員一人一人が部署の事業目標を理解しながら、ルールや決め事を立てなくても自然に行動に移せる様に指導したい。

食事摂取量と水分1500mlに関しては、対策を考え、統一した対応を行う事で、年間を通し目標を維持出来ている。来年度も継続出来る様にしていきたい。

### ②一般棟

サービスの質向上を目標に、それぞれに部門を4つに分け、PDCAサイクルに基づいた、意識・情報共有を目的に職員面談やケース検討会議を行った。その結果、職員間の摩擦やズレが徐々に減少し、組織的な問題報告の体系(報連相)が完成した。その体系から生まれた効果は個の力を結束し、チーム力を発揮する為のコミュニケーションが増え、課題解決の処理スピードが迅速になった。又、ケース担当者の行動が正確になり、サービス(個別ケアや外出行事)提供レベルを向上させ、ケアマネジメントのスパイラルが循環した。結果、担当ゲストの短期目標達成率は向上したと捉えるが、抽象的であり、何を持って達成したかの判断はし難い。

次年度も多くのプロジェクトを予定し、考えられる課題も多い中、今年度において、処理スピードが迅速になり、報連相・情報共有力の向上など、職員面談を行う事で、生まれた結果(効果)は大きいものとなった。そしてサービスの質やチーム力を高める要因となり、その重要性に気づいた。次年度においても、面談やケース検討会議等、情報整理と共有を行い、職員一人ひとりの正確性が向上し各プロジェクトの達成を狙う。

### ③全体

今年度新たな取り組みとして、「地域住民向けの看取り発表会」を実施した。これは、介護保険制度改正で新たな算定要件として明記されたのがきっかけであるが、これまで、ご家族や職員研修等、内部の発表に留めていたことから、地域の方々が、「特養の看取り介護」をどのように受け止めているのか不安であった。10名程度の参加となったが、施設介護を知らない方々には、よい発表の場であった。

又、昨年同様、全国的にも介護職員不足の中、当園においても介護職員の確保が難しく、

新規事業立ち上げもあり、法人内の3施設合同で確保に取り組んだ。新卒者向けに、求人用パンフレットの作製、学校への営業回りや就活サイトの活用、見学説明会の開催、西日本の福祉系大学への求人票郵送など様々な角度から検証した結果、新卒採用は増加している。更なる向上を目指し取り組んでいきたい。

28年度は、EPAの職員が8月より勤務することとなる。研修体制や生活指導も含め万全の体制で望んでいきたい。又、大慈園20周年、法人70周年の節目の年であることから、職員同士の連携を深め、ゲストが安心して大慈園で生活できる様努めていきたい。